

5歳児後期（11月頃～3月）

ねらい

- ◆ 共通の目的に向かって、友達と互いのよさを認め合いながら協力してやり遂げる充実感を味わう。
- ◆ 場面や状況に応じて必要なことを考え、自分なりに判断して行動する。

《関わり》

親しみ
自己発揮
共感
調整
など

- ・小学生との交流などを通して、憧れや親しみの気持ちをもつ。
- ・自分の力を発揮したり、友達のよさを認めたりしながら遊ぶ。
- ・クラスの友達と一緒に、目的に向かって役割を感じながら活動を進め、気持ちを合わせる心地よさややり遂げた満足感を味わう。
- ・自分の考えを相手に分かるように話したり、相手との考えの違いに気付いたりする。
- ・友達の考えを受け入れたり折り合いを付けたりしながら遊ぶことで、面白くなることを実感する。

《自立》

自信
判断
身だしなみ
礼儀
など

- ・様々な人に自分のことを認めてもらう経験を通して、自信をもって行動する。
- ・年下の幼児に対して親しみをもって親切に関わり、相手が喜ぶことを通して満足感や自信をもつ。
- ・今は何をすべきかを自分なりに判断し、状況に応じた行動をしようとする。
- ・身近な人（高齢者、年下の幼児、地域の人など）との関わりを通して、相手に合わせた言葉遣いを考えたり、意識して行動したりする。

《規範》

決まり
ルール
マナー
など

- ・公共の場での過ごし方や交通安全のルールが分かり、守ろうとする。
- ・生活に必要なルールや危険なことについて理解し、意識して行動する。
- ・友達と一緒に遊びをつくり出す中で、必要に応じて新たなルールをつくったり、自分たちで考えたルールを守って遊んだりする。
- ・生活に必要なことや当番活動に、友達と声を掛け合って取り組む。
- ・クラスや共有の場所での整理や片付けを、友達と協力してすすんで行う。
- ・生活の流れや活動に自分なりに見通しをもち、時間を意識して行動する。

保育者の関わりで大切にしたいこと

- 一人ひとりの頑張りや取組を伝え合う機会を通して、互いに認め合う雰囲気をつくる。
- 友達との関わりの中で互いの思いを理解できるように、相手の言葉や表情、行動に自分から関心を向けられるようにする。
- グループの取組の中で、一人ひとりが十分に自己を発揮して、互いのよさを活かしながら遊ぶ機会を意図的に設定し、やり遂げた満足感を味わえるようにする。
- 年下の幼児が喜び姿や年長児に憧れている姿を意識的に取り上げて伝え、他の人の役に立つ喜びを感じることを、満足感や自信につなげていく。
- 自分なりに判断して行動しようとする姿を認め、自信につながるように関わる。
- 様々な人との関わりや園外の施設を利用するなどの機会を通して、幼児の状況に応じて行動しようとする意識を育てる。



家庭とともに

- グループ活動の中で経験すること（友達と相談したり折り合いをつけたりしながら進める、相手の考えや立場を尊重する、自分の役割を果たすなど）が、規範意識の芽生えにつながることを伝える。更に、そのことが小学校での生活や学習の基盤になることを伝え、我が子やクラス全体としての成長への理解が深まるようにする。
- 就学に向けて、時間を意識した行動、交通安全への意識、公共の場所でのマナーなどを一人ひとりが身に付けられるよう、家庭と連携して確認していく。
- 園での幼児の成長の様子を具体的に知らせて、家庭でも大いに認めてもらい、自信につなげていく。
- 家庭での手伝いを継続することが、幼児の家族の一員としての誇りや自信となり、今後のよりよい成長の基盤になることを伝える。合わせて、当番活動や園の仕事を担っている幼児の姿を紹介し、家庭での手伝い内容のヒントにしよう。

学校へ行こう ～就学前教育カリキュラム（P.112）の活用～

- 【目的】** 幼児が保護者と一緒に小学校まで歩いて行くことを通して、親子で安全に気を付けて行動する機会にする。
- 【内容】** 保護者会などで、就学に向けての話の中で、以下のような地図とカードを配布し、親子で取組んでもらう。その際、幼児が自分で気を付けながら行動できるように見守るなど、大人の関わり方の例も伝える。

〇〇しょうがっこうまでのちず



- ① いえのひとといっしょに、しょうがっこうまでのちずをかいてみましょう。
- ② めじるしには、ほしのシールをはりましょう。
- ③ ちゅういしてとおったほうがよいみちは、きいろでぬりましょう。
- ④ こども110ばんのぼしよにしるしをつけましょう。

がっこうへいこう！！

もうすぐ1ねんせい。
いえのひとといっしょに、
がっこうまで
あるいてみましょう。



歩いたら、□にシールを貼ります。



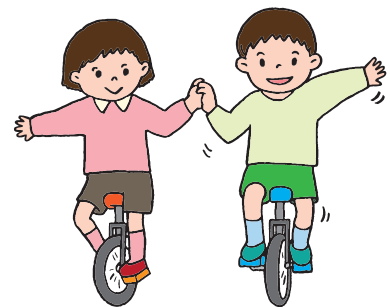
あんな場面 こんな場面 (指導例)

一人ひとりのよさをクラスに広げる

5歳児11月

S児とT児は、一輪車の練習中です。何度も転びながら頑張る二人。ある日、S児が転ばずに数メートル進むと、T児は「Sちゃんすごい！いっぱい進んだね！」と、自分のことのように喜んでいきます。その後もS児は、T児や保育者に認められながら何度も挑戦し、スムーズに乗れるようになりました。

しばらくするとS児がT児に「前をまっすぐ見るといいよ。」「そうそう、Tちゃん頑張って！」など、自分が見つかったコツを伝えたり、励ましたりしていました。保育者はS児に「Tちゃんがたくさん応援してくれてうれしいね。」、T児には「Sちゃんが教えてくれて、一緒に乗れるようになるのが楽しみね。」と伝えました。そしてクラスの集合時に、二人の姿を紹介することにしました。



ここがポイント！

- よさを認め合う場面を意図的に設定し、様々な友達に認められることを通して、自信につなげていきましょう。

「じゃあSちゃんは、教えてくれる名人だね。」

保育者が「今日、とてもすてきなことがあったの。Sちゃんが一輪車に乗れるようになったの。そうしたら、一緒に頑張っているTちゃんが『Sちゃんすごい！』って、とっても喜んでくれたのよね。」と言うと、S児はうれしそうにうなずきました。すると「この前、私が鉄棒できたときも、Tちゃんが『すごい』って言ってくれたよ。」「僕も！」と、数人から声が上がりました。保育者は「Tちゃんに『すごい』って言ってもらってうれしかった人が、こんなにたくさんいたのね。Tちゃんは、お友達のすごいところを見付ける名人ですね。」と言いました。更に保育者は、S児が一生懸命にT児に乗り方を伝えたり、励ましたりしていた姿も伝えました。すると他の幼児が「じゃあSちゃんは、教えてくれる名人だね。」と言いました。二人は目を見合わせてうれしそうに笑いました。

- 様々な友達とよさを認め合うことは、大きな集団の中で自信をもって行動することにつながります。

一人の気づきをクラスの取組につなげる

5歳児1月

片付けの時間になり、みんなが保育室に入ったのに、U児だけがまだ園庭に残っています。

しばらく歩き回って戻ってきたU児は、「おもちゃが残っていないか、見回りしてきたよ。ボールが落ちてたから、片付けてきた。」と言いました。



ここがポイント！

- 一人ひとりが自分で考えて行動したことを価値付け、友達の姿からみんなのこととして考えられるようにしましょう。

「見回り隊、っていう名前にしようよ。」

みんなのことを考えて片付けている姿をうれしく思い、保育者が「ありがとう。みんなが喜ぶね。」と伝えると、U児はにっこりと笑いました。

集まりのときに、保育者はU児の行動について、クラスの幼児に知らせました。U児は、「えらいね。」「ありがとう。」と友達から言われてうれしそうでした。

その後、「今度は僕も手伝うよ。」「片付け当番をつくったらいいんじゃない。」「じゃあ、見回り隊っていう名前にしようよ。」などと、活発に考えが出されました。共用の物や場所をみんなで大切にしようとする機会になるとともに、「見回り隊」は、クラスの活動になりました。

- 自分で考えて行動したり、友達の姿を見て学んだりしたことは、状況に応じて必要な行動をしようとする姿勢につながります。

〈自分で考えて行動しようとする機会を多くもちましょう〉

様々な人との関わりや園外で活動する中で、幼児がこれまでの経験を基に、自分で考えて実際に行動することを大切にしましょう。

- 例 年下の幼児に生活の引継ぎをする：相手に分かるような話し方 年下の幼児への接し方
- 図書館等公共の施設を利用する：往復の集団行動の仕方 館内での過ごし方 施設の職員の方との接し方
- 小学校を訪問する：挨拶の仕方 授業中の校内の歩き方 教師や児童との関わり方 など



使ってみませんか？ 〈資料等〉

下記は、全国国公立幼稚園長会が発行しているリーフレットの表紙の絵です。日常の園生活に即した出来事が描かれており、保育者、保護者が「規範意識の芽」について共に考える資料として提案されています。園生活での様々な経験を重ねて、物事を客観的に捉える力が育つ中で、幼児の様々な気付きや考えを話し合うきっかけとしても活用することができます。

全国国公立幼稚園長会 特別事業 2010



育てよう 規範意識の芽

規範意識の芽生えは遊びや生活の中から



**この表紙の中に、“規範意識の芽”はいくつあるでしょう？
あなたはいくつ発見できますか？**

このリーフレットは、規範意識について、教員・保護者が共に考え、幼児期からはぐくんでいくことを提案する資料です。
データや具体例を示し、コピーして園内研修や保護者会等で活用できるように作成しました。あなたの活用力に期待します。



表紙の絵から規範意識をはぐくむストーリーを作ってみましょう！

規範意識をはぐくむきっかけは、生活のどの場面でも見つけることができます。

小さなできごとや体験の積み重ねの中で、幼児が漠然と感じている生き方や人のかかわり方に関するマナーなどを、教師がタイムリーに意識付けていくことが大切です。表紙の絵から規範意識をはぐくむ芽を見つけ、子どもの心の育ちにに応じてどのように意識付けるか、どのようなモデルを示すかなど、あなたのストーリーを作ってみましょう。

例えば、砂場で大型シャベルを使っている場面から

ストーリー1

教師は、A児にB児たちが困っていることを知らせて、周りに気を付けて遊ぼうねと声をかける。



ストーリー2

教師がA児のシャベルの前を通って「アッ」と砂をかけられる場面をつくり、周りの幼児に砂がかかっていることをA児に気付かせる。



ストーリー3

砂をかけられても気付かず遊んでいるB児たちに、「砂がかかってシャツの中に入っていない?」と気付かせる。

注意を喚起する、謝るように促す、困ることを主張するように誘導するなど、一つの場面でも、一人一人の幼児の発達の状況や、その場面に居合わせる幼児集団の発達の状況によっても教師の援助は異なります。

特別事業2010 リーフレット「育てよう 規範意識の芽」から

(全国国公立幼稚園長会 平成22年10月)

<http://www.kokkoyo.com/details/leaflet.html>

◆ 子供と一緒に、ひとこと

皆さんが子供の頃に感銘を受けて、今でも心に残っている言葉（ことわざや故事成語、詩など）はありませんか。保育の中で幼児と共に「合言葉」のように使ってみるのはいかがでしょうか。励まされる言葉、心が浮き立つ言葉、自己を見つめる言葉…意味が今は分からなくても、幼児の心の支えになっていくことでしょう。

親しき中にも礼儀あり

(ことわざ)

失敗は成功のもと

(ことわざ)

ドンマイ

(英語 “Don't mind” から)